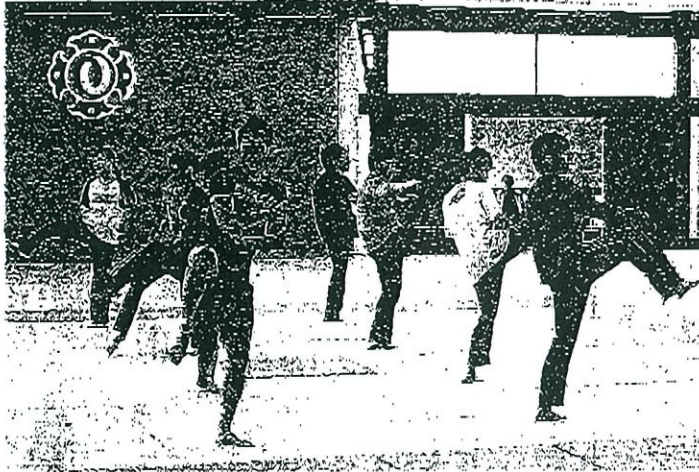


協力し合う大切さ学ぶ

JR四国

社会人としての基礎知識習得などを目的に、各社で多様なメニューを組む新入社員研修。JR四国では2015年(平成27年)から、同研修の一環として武術の少林寺拳法を採り入れている。発祥地で総本山の「金剛禅総本山少林寺」が香川県多度津町(最寄り駅・予讃線多度津)にある縁から始まったもので、本年度は4月下旬の3日間、総合職採用の29人がその門をたいた。



少林寺で研修に励んだ新入社員

新入社員研修に少林寺拳法

団体行動訓練や作務に参加

そもそも武術とJRに何の関係があるのか。29人の多くが研修前には疑問を抱いたという。少林寺拳法では、修行を「自信と行動力と慈悲心を持った、社会で役立つ人を育てる『人づくりの行』と定義。指導や普及を担う通達本部では、その教えや技法、教育システムを生かした研修を請け負っている。同社では、その理念を通じた集団行動の定着を研修の狙いとした。

研修目標には「団体(組織)の一員として、一つのことを創り上げる」が掲げられ、メンバーは3日間、指導員の教えの下、団体行動訓練や講義、実技、グループ討議、作務(掃除)といった各種プログラムに参加。全員で協力して物事に取り組み、ことに挑戦した。最終日には、締めくくりの成果

発表として、これまで学んできた同拳法の技を組み合わせた団体演武を、各チームごとに披露した。事務系採用の大杉琴音さんは「何事にも意思疎通が必要で、最後の演武は音で声を出すことに慣れて一つの作品にすることができました。最後には少林寺と仕事の共通点が合致し、一つのことにより剣になる大志さを実感しました」と達成感を吐露した。

◇ 総合職の新入社員研修は今月下旬までの予定で、期間中は各現場での実地研修などを実施。以降は一部を除き車掌研修に移行する。

少林寺拳法は1947年(昭和22年)に宗道臣が多度津で創始。その立地から国鉄・JR四国とのつながりは長く、草創期の門下には多度津駅などに勤務する国鉄職員が多数おり、その後の転配員で全国に散った職員が普及の一役を担ったといわれている。